

血管エコー検査 まれな症例は一度みると忘れない

近年，急速に普及・急増している血管エコーは全身の動静脈を検査することが可能です。その検査目的のほとんどは，動脈硬化性病変に伴う狭窄・閉塞の有無や血栓・静脈瘤の有無，バスキュラーアクセス評価などです。それ以外の疾患となるとまれであり，遭遇した際にその疾患自体を知らない・みたことがないと見過ごしてしまう可能性があります。

今回，各領域における専門家の方々により，まれな自験例を用い，綺麗な超音波画像を多数登載していただいています。超音波検査時の観察ポイントや他疾患との鑑別ポイント，または他検査を含めてどう診断に結び付いたかをわかりやすく，詳細に記載していただきました。

まれな症例ほどインパクトがあり，一度でもみてみると脳裏に焼き付き忘れにくいと思われます。本特集を契機に，今後，こんな症例をみたことがある！ から診断につながるものがあれば幸いです。

藤崎 純

(東邦大学医療センター大橋病院臨床生理機能検査部)